

第1回逗子市財政再建検討会議事概要

- ◎日 時 平成31年4月1日 午後6時～7時50分
- ◎場 所 逗子市役所 庁議室
- ◎出席者 山科氏、畠中氏、筒井氏、玄氏、菊池氏、
桐ヶ谷市長、柏村副市長、企画課 橋本、経済観光課 楠元
- ◎関係職員 財政課長 佐藤、経済観光課長 岩佐、まちづくり景観課長 須田
- ◎事務局 経営企画部 福井、企画課 福本、仁科、四宮、金子
- ◎記 録 企画課 金子

- ◎配付資料 第1回逗子市財政再建検討会議 次第
資料1 逗子市財政再建検討会議開催要綱
資料2 実施体制図
第1回逗子市財政再建検討会議 出席者
座席表

◎議 事

1 開会

配付資料の確認

自己紹介

2 財政再建に向けた実施体制等について

事務局：資料1及び資料2を用いて体制を説明。

(質疑)

畠中氏：どのような時にプロジェクトチームができるのか。

事務局：新しい何かを取り組む場合や色々なアイデアを集めたい場合等にチームを設置している。

畠中氏：チームのメンバーは、有志とすると、やりたくなければ断ることもできるということか。

事務局：何をいつまでにやるかを含め、メンバーを指定するので、基本的にそのようなことはない。

筒井氏：プロジェクトチームの内容もこの会議で決めていくのか。

事務局：この会議にそこまで明確に求めているものではない。この会議で出たアイデアや企画を参考に市役所側で考える。

筒井氏：PDCAとは市役所の中のPDCAか、それともこの会議へも報告をいただけるものか。

事務局：実際にいただいたアイデアを実施し、問題がないか等をこの会にフィードバック

クするという意味。

3 座長の指名

市長により山科氏を指名し、了承された。

4 逗子市の財政再建について【意見交換】

(ふるさと納税について)

財政課長からふるさと納税の取組み及び現状について報告

(意見交換)

山科氏：平成 30 年度の赤字の部分の金額を教えてください。H30 年度はまだわからないと思うが、どのくらいになる想定か。

財政課長：逗子市の方が他市へ寄附したことで税の額の減少額は6月にならないと確定しないが、平成 28 年度がマイナス約 5,900 万円、平成 29 年度がマイナス約 8,400 万円である。平成 30 年度は、ふるさと納税が過熱している状況なので、さらに増える可能性がある。

山科氏：このマイナス部分をプラスにすることが目的なので、プラスにするアイデアを出すことがこの会議でやらなければならないことだと思っている。

畠中氏：ふるさと納税を考えるとときの基本的な考え方を教えてください。返礼品で対抗するのか、それは戦略的に正しいのか。原点に返ることもありではないか。基本的な考えをしっかりとしておく必要があるのではないか。

副市長：昨年の9月10月頃から総務省が返礼品について、地場産品基準及び返礼品3割の基準等を示し、基準を守らない自治体は公表していくこととなったことはご承知のことだと思うが、今年の6月からは、基準を守らない自治体への寄附は、寄附控除の対象とならない罰則のようなものが設けられることが示されている。市としては、総務省が示す基準と言うのは、守っていかなければならないと思っている。

山科氏：マイナスをコントロールしないと大変なことになるのではないかと知っている。

市長：コントロールできるのであれば完全にコントロールしたいが、寄附を募るとやめるとマイナスだけになる。流出をコントロールできる手法はないので、寄附が増える方法を考えマイナス部分を埋めていくしかないと考えている。市では、周知等の費用をかけてでも策を考えないといけないと考えている。

副市長：印刷費については、財政課に既存のふるさと納税の関連予算があるので、その中で対応可能。チラシのデザイン等は経済観光課で作成を対応。主に市外の方が集まるイベントや市外に行く際に配布用に使用する。

畠中氏：手当たり次第逗子をPRしていくのは、最後の手段ではないか。まだやることがあるのでは？手を尽くしアイデアが無くなってからでも良いのではないか。市役所内部の検討の中で職員等のアイデアが出てきているのでは？そのアイデアを聞いて議論していくのも1つのやり方ではないか。

山科氏：市でアイデアがあり、具体的に実行していく道筋があるのか。市でアイデアが無いからこの会議で考えてほしいとのことか。ニュアンスが難しいと思う。

玄氏：使い道について、どの使い道を選ばれることが多いのか。

財政課長：子育て支援や高齢者関係、あるいは、使途を指定しないで市へお任せする、といった使途を選ぶ方が多い。

玄氏：使途を指定しないで市へお任せする方が多いのであれば、見せ方や発信の方法、市の考えを訴える手法等、まだ出来ることが残っているのではないか。企業版ふるさと納税もまだやっていないので、まだ、別の手段の方策が残っているのではないか。

山科氏：たくさんアイデアがある中で、どのように絞り込んでいくか。方向性を見つけたいと思っている。どのように具体論へ落とししていくか。

市長：プロジェクトチームの1つをふるさと納税プロジェクトチームでやるのはどうか。

経済観光課長：返礼品としてどのようなものが魅力的なのか。逗子ならではの特征とはどのようなものかを商工会と連携し取り組み始めたところである。職員へアンケートを実施し締め切ったところなので、これから、商工会と返礼品の開拓をしようと取り組んでいる。また、使途については、クラウドファンディング型、企業版型についても財政課と情報を共有し検討を進めていく予定。現状は、返礼品や使途に関しては、アイデアが出てきたところなので、総務省の基準を内部でも整理し結論が出た段階で実行していきたいと考えている。今年度についてはこれで実施し、結果が出なかった時にさらに一段階上がる必要がある。市外に対してどのようにプロモーションしていくかについては、観光は既に市外へプロモーションを行っているので、その一環としてふるさと納税も市外へPRすることも考えている。このような考えを実行した段階で、フィードバックし相談するという形が良いのではないか。

市長：様々な情報はアドバイザーの皆さんにお願いし、考えや実行結果を報告するのは市側となると考える。

山科氏：原案は市の方から出してもらい、それに対しアドバイスできる事があれば行っていくと言う形が良いのではないか。

市長：1つはふるさと納税、もう1つは空き家バンクで、この2点の中で市の方が何をどのようにやるか、考えをまとめられるか。問題点は何かあるか。

経済観光課長：ふるさと納税は、市でまだやっていない部分があるので、まずはそれを実行する。そして、その結果をこの会へ報告し、次の段階が必要な場合はプロジェクトチームを結成するのではないかと考えている。

筒井氏：結果がいつ出て、次にどのような手法を実施するかの工程表が見えてきていない。アイデアが出てくるのがいつで、そのアイデアに対して意見が言えるのがいつなのか。次の会議でどのようなアイデアが出ているのか示してほしい。

経済観光課長：アンケートは締め切っているので、商工会と打ち合わせをし、次回に資料として提出する。

山科氏：商工会としてはどうか。

菊池氏：市外へのプロモーションは市でやっていただき、商工会では職員アンケートを基に魅力的な返礼品づくり、新規事業者の開拓を行っていく予定。市外に向けてPRするのはもちろんだが、市内に向けて、市内在勤、逗子をふるさととする市外の方等の逗子市民関係者へ向けても周知をしていってほしい。また、印刷物があった方がPRしやすいと思っている。市内向けのPRは媒体や方法が難しいが、市でアイデアを出してもらい、商工会と連携して実施してほしい。

山科氏：ものでないサービスにシフトしていけば良いのではないかな。

経済観光課長：ウィンドサーフィン等のマリンスポーツ体験のサービスが逗子が多い。肉や魚等で勝負をしても勝てないので、今のルールの中で逗子の特徴的な返礼品を考えていきたい。

玄氏：ウィンドサーフィンという話が出たが、逗子海岸でウィンドサーフィンの大会が行われている時も逗子の街中では大会が行われていることがまったくわからない。海外では、駅を降りたところにウィンドサーフィンの町とわかるような取り組みがされている。逗子も特徴的な返礼品として、ウィンドサーフィン体験をPRしていくのであれば、このような取り組みもできるのではないかな。

山科氏：時間の問題もあるので、次に空き家について市の方から説明を。

(空き家について)

まちづくり景観課長から空き家の取組み及び現状について報告

(意見交換)

山科氏：活性化委員会の方に不動産関係に詳しい方を入れたほうが良いのではないかな。

畠中氏：利用されていない空き家に、負の資産化したメカニズムがある。うまくまわすためには、一度、カンフル剤をうち、正の資産とまでいかなくても、ゼロの資産とする必要がある。正の資産化ができれば、色々な使い道がある。

山科氏：空き家バンクをおこなう前にできることがあるのではないかな。家のちょっとした修理に来てくれる人がいない状況。市として空き家にならないような、市民サービスとして、業者を紹介するサービス等はおこなってもらえないかな。

まちづくり景観課長：空き家は1年2年経ってしまうと使えない状態になってしまうので予防が大事だと宅建協会から聞いている。空き家になる可能性の段階でいかに市に相談に来てもらえるかが大切。他の自治体では、空き家対策と並行して、リフォーム助成を実施している自治体もある。逗子の場合は、不動産の流通が活発ということで、家が売れる町だと言われているが、なぜ空き家になってしまっているかの事情を把握することが、対策を考える糸口ではないかなと言われている。宅建協会及び行政書士会と協定を締結したうえで、空き家バンクを活用できればと思っている。また、すべての固定資産税の納税通知書に空き家バンクの案内、空き家に関する相談を受け付ける旨の案内を入れる予定だ。

山科氏：商店街は、大家さんから借りて賃貸借している人が多いと聞いているが、大家さんとの関係はどうなのか。

菊池氏：住宅と商店は別の話しと捉えており、逗子の商店街は、地主さん、家主さん、テナントさんの三層構造のところが多い。それだと、テナントがなくても地代が発生するため、空き家になっているところはない。空き家となっているものは、建物と土地が同じ所有者のものが多い印象がある。

まちづくり景観課長：開発の規制条例の見直しを行っている。単なる緩和でなく、利便性や公益性、地域の特性等を考慮した見直しを考えている。空き家問題と絡めて考えたい。

山科氏：次回、マクロではなく具体策を考えられるようにしたい。

まちづくり景観課長：空き家バンクを5月1日にスタートする予定なので、スタート状況を報告し、意見をもらいたいと考えている。

市長：利用者が業者探しに困っているが、業者も利用者探しに困っている状況である。パブリックサービスに業務を流し、市内事業者に循環できる仕組みを考えてみる。

橋本氏：ふるさと納税については、市外にいる自分達の子どもにアプローチする手もあるが、市外にいる親に進めるのはどうか。ぜひ魅力ある返礼品を作ってもらえると親にも進めやすくなる。空き家については、市外の友人等と逗子に住みたい人はいるが、逗子は物件がないと聞く。空き家を活用し、おしゃれなりノベーション等を実施することにより、若者世代も入ってきやすくなると思う。

菊池氏：市外に住んでいるお子さんが両親へ返礼品を贈ることもある。逆に、市外に住んでいる祖父母から孫の誕生日に贈るのも良い。

橋本氏：鎌倉では江ノ電のプラレールを祖父母から送付されているという話しも聞いている。

畠中氏：ふるさと納税の話しを具体的に進めていくために、いくらを目指すのか枠組みがほしい。出と入の相殺でプラスマイナスゼロを目指す目標が高いが、現在のマイナス額を半分にする目標であればできないのではと思う。目標がある方が、期間や準備内容も具体的になってくるのではないか。

山科氏：逗子が財政難なので寄附をしてください、とアピールするのも良いのではないか。正直に現状を伝えるのも効果的ではないか。

玄氏：ふるさと納税で逗子市が赤字になっていると理解している人は少ないと思う。

財政課長：5月広報にて逗子のふるさと納税が赤字になっている現状をお知らせする予定である。

筒井氏：ネガティブな内容を伝えるだけでなく、何をしてほしいか伝えないといけない。

福井部長：市長のコラムの中でも逗子市のふるさと納税のマイナスの話に触れるようお願いしている。3月の会議で逗子市のふるさと納税のホームページが探しにくいのご意

見があったので、ふるさと納税のページを逗子市のトップページにリンクした。

市長：トップページにリンクを貼った事によるアクセス数等の違いはわかるか。

福井部長：現在確認していないので、次回の会議までに確認する。

玄氏：ふるさと納税のバナーをトップにしたと聞いたので、確認したが4つぐらいバナーが動いているので、すぐにとふるさと納税のバナーとならない。

財政課長：トップバナーではなく、ボタンにすることも検討したが、ボタンにすると、スマートフォンの場合、一番下に表示されてしまうため、今回はトップにくるように設定をしている。何か対応方法があるかホームページの所管課へ確認する。

楠元氏：経済観光課は2月末から対外的PRを強化するため、商工会と連携し業務を行っている。先月には、市内事業者を対象としたブラッシュアップセミナーを商工会で実施した。また、職員アンケートを実施し、現在アンケート結果を集計している。アンケート結果等にご意見をいただければと思う。

山科氏：活性化会議の次回の会議（4/14）までに、委員へふるさと納税及び空き家の具体策を出してもらうために活性化会議の座長名にて通知してもらいたい。

橋本氏：了解した。

畠中氏：活性化会議で出た意見をどのように対応したか、活性化会議のメンバーへ伝える方法も考えないといけないと思う。この会議で決まったことを活性化会議へフィードバックするというかたちもある。

山科氏：市としての考えや手法を示し、意見やアイデアを求めるかたちでも良いと思う。

以上